砂糖でできた君に、

白坂　ゆのる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

砂糖でできた君に、

【Ｎコード】

Ｎ８９１４Ｅ

【作者名】

白坂　ゆのる

【あらすじ】

ほんとに、無意味な、だけど甘い、そんななんてことない日常です。

砂糖でできたはなびらに、きみは真っ赤なくちびるをよせた。
唾液でしたたかにぬりたくられた前歯が、がじりと脆いはなびらを食いちぎる。
「あまーい」
そりゃ、ぜんぶが砂糖だしな。
と言いたいのを抑えて、ぼくはそう、と相づちを打った。
彼女は、さちこは自分の思い通りにならないことがあると、すねる。
この砂糖菓子だって、きのうぼくの失言によって損ねた、さちこの機嫌をとるためだ。
この月末、さちこはよりによっていちばん高い砂糖菓子を選んだ。
すっからかん寸前の財布でも、さちこの機嫌さえとれればまあ、いいだろう。
砂糖菓子のかけらが、ほろほろとさちこのワンピースの上におちるのをみつめながら、そうぼくはとりとめもないことを考えていた。
それをみたぼくは、その砂糖菓子でも、かけらでもいいから姿をかえることができればいいのに、そう思う。
つい、抑えきれないいとしさがこみあげて、ぼくはさちこの薄桃色のくちびるに、くちづけをした。
ぼくのくちびるでそっと、その花弁を掴んで、つつむ。
花弁は蜜をおさえきれずに、蜜をあっさりと侵入者に盗まれていく。

くちびるを離してから、その心地よい快感の余韻すら感じさせずに、さちこはつぶやく。
「ねえ、こうちゃん」
ああ、この小鳥のさえずりのような、、まっさらなこの声が、ぼくを狂わせてゆく。
いとしい、いとしい。

いとしいより、このきもちを形容できることばは、この世に無いのだろうか。
あったらいくらか便利になるはずのなのに。すくなくとも、このぼくにとっては。
「ひとってね、たいせつなひとのために生きるんだって」
「どうして」
また、さちこは砂糖菓子をかじる。
「だって、自分だけのためだけにしか生きれないのは、かなしいじゃない」
「さちこは、かなしいの？」
ぼくがそのあまりの臭さに苦笑しながら、さちこをじっとみすえて言い放った。
すこしかっこうをつけた。
「あっはぁ」
と、意味不明な笑い声をあげて、さちこもこちらをじっと見つめた。
視線が深く、長く絡みあっていくと、さちこの唾液にいろどられた甘美な口角がゆっくりと両端にあがっていく。
「かなしさなんてかんじさせないくらい、そばにいてよ」
熱い、音だけがむなしいくらいに、白い壁に吸収される。
「こーーーーーちゃん、」
さちこの手が、腕が、ぼくの首のうしろに回されていく。
さちこの手に温度はないのに、どうしてこんなにも熱いんだろうか。
「だあいすき」
ああ、結局無意味なのだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8914e/

砂糖でできた君に、

2010年10月31日03時26分発行